

県民と郷土を結ぶ総合博物館

青森県立郷土館だより

News from the Aomori Prefectural Museum

通巻171号 平成30年(2018)6月15日 Vol.49 No.1



青森県立郷土館では、我が青森県の歴史と文化を知り、後世に伝えていくための資料を収集しています。1973年の開館からこれまでに収められた資料は今ではおよそ10万点にも上ります。

昨年行われた収蔵庫の改修工事にあわせて全館的な資料整理も実施し、これまで県民から寄贈された大切な資料を全分野、一点一点丁寧に確認して、資料を見直すきっかけともなりました。

そこで今回の企画展では、数ある収蔵資料のうち、近年収蔵された新収蔵資料とともに、資料整理によって改めてその価値や魅力が再発見された資料、また、これまで公開する機会が少なかった資料を展示しています。

期間中は、来館された方に今回の展示資料の中で特に印象深かったものを選んで投票していただく「お宝総選挙！」を実施し、獲得票が多かったものを開催期間後も継続して展示し、より多くの県民にご覧いただけるようにします。多くの方から支持を得た資料は、その魅力をより多くの方に共感していただきたい、また、観覧された方がど

んな資料のどのような点に注目されているのかを知り、今後の企画展に活かすというのがねらいです。

他にも、資料整理の過程で見つかった「郷土館音頭」の楽譜と音源も披露して、目で見ただけではなく、耳で聞いても楽しめる企画展になっています。ぜひ、来て、見て、聞いて県立郷土館のポテンシャルの高さを感じてください。

(研究主査 福士道太)

新収蔵×再発見2018

◇開催期間：平成30年5月25日(金)～7月1日(日)

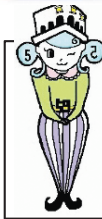
※会期中無休

◇開館時間：9:00～18:00

◇会場：特別展示室(大ホール)

◇料金：一般 310円(250円)
高校・大学生150円(120円)

※()内は20人以上の団体料金。中学生以下は無料。
障がいのある方、老人福祉施設に入所の方は観覧料免除。上記金額で常設展示もご覧になれます。



きよどっち

郷土館の公式(?)キャラクター。郷土館が好きすぎて、郷土館の建物の形をした帽子を自作、髪は旧第五十九銀行の“5”と“9”の形に毎朝3時間かけてセットしている。



きよどっち 学芸課の増田さん、「新収蔵×再発見2018」の各分野のみどころを教えてください!

増田 まずは自然分野から「錦石」を紹介するよ。



錦石

錦石と呼ばれるのは、玉髓やめのうなどを主体とする石で、磨くと美しいつやが出る石のことだよ。主に津軽地方を中心に昔から多くの人々に親しまれてきたんだ。



きよどっち 平成28年には、日本地質学会から「青森県の岩石」に選定されたのよね。

増田 考古分野のオススメは、青森市駒込で発掘された大型の石棒。

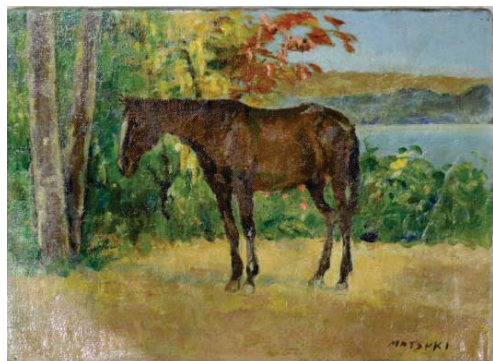


縄文時代晩期の石棒

縄文時代晩期の石棒は細いものが多いんだけど、この石棒は太くて大きく、地元の石で作られていることが特徴だよ。両頭のは珍しいんだって。



きよどっち 美しい絵も展示しているね!



松木満史「湖水と馬」

増田 美術分野では、県を代表する画家・松木満史の絵を展示しているよ。旧所有者は黒石民報社の社長さんで、不明な点が多い松木の交友関係を研究する上でも貴重な資料なんだ。



きよどっち わあ、きれいな模様の服!



こぎん刺し

増田 民俗分野のイチオシはこぎん刺し着物。紺の麻布に白の木綿糸で、一針一針刺して模様を生み出しているんだよ。この資料は以前、小川原湖民俗博物館に所蔵されていたものなんだ。



きよどっち 先人分野の蓑虫さん? って変わったお名前ね。どなたかしら。



蓑虫山人筆浪岡全景図屏風

増田 蓑虫山人は幕末から明治半ばにかけて全国を旅した放浪の画人だよ。この屏風は浪岡(青森市)の旧家に保管されていたもの。滞在中に彼が深く関わった場所やなじみのあった場所などが独特の視点で描かれているよ。



きよどっち わあ、色あざやかな鳥瞰図! 描き方がとってもユニークね。



十和田湖鳥瞰図トレース画 (部分拡大)

増田 歴史分野からは、吉田初三郎の鳥瞰図をご紹介します。彼は大正期から各地の都市や名所等の鳥瞰図を描いて一世を風靡した絵師だよ。この絵は、十和田湖を描いた鳥瞰図のトレース画で、原画の上にトレース紙を置いて写し取り、製版に使ったものなんだ。



きよどっち ほかにも、ここではご紹介しきれない貴重な資料が約300点。ぜひ見に来てくださいね。お待ちしております!

あの“しゃこちゃん”にさわれる♪

平成28年度に設置され好評を博してきた考古分野の「さわれる複製品（レプリカ）」に、この4月から新しい仲間が3点お目見えしました。まずは、郷土館のマスコットにもなっている遮光器土偶（「しゃこちゃん」の愛称で有名。実物は東京国立博物館にあります。）。そして遮光器土偶のような表情の土面（青森市羽黒平遺跡出土・風韻堂コレクション）とサメの歯を模したと考えられる石製垂飾（十和田市高谷遺跡出土・風韻堂コレクション）です。

考古展示室にある「さわれるしゃこちゃん」は、もちろん実物大。ガラス越しの展示では観察できなかった頭の上や背中も自由に見ることができ、中が空洞だということも分かります。レプリカは3Dプリンターを使って石膏で造形したもので、重量は実物よりも200グラムほど重い1640グラム。想像していたより軽いか重いか、まずは持ち上げてみてください。

人気のクマ形土製品と土面、石製垂飾は、3階の「わくわくたいけんルーム」に設置していますので、そちらにも足を運んでみてください。来館者に展示資料を身近に感じてもらうため3Dプリンターによる造形を活用するのは、博物館事業の中では新しい試みの一つです。皆さんも縄文を体感してみたいかがでしょうか。

（学芸主査 岡本洋）



遮光器土偶レプリカの背面



わくわくたいけんルームのさわれるレプリカ

岩合光昭写真展「ねこの京都」まもなく開催

—大人気のあの展覧会が帰ってきます！—

青森県立郷土館の指定管理者TTHAグループが主催する展覧会「岩合光昭写真展『ねこの京都』」がまもなく開催です。

岩合光昭氏は、地球上のあらゆる地域をフィールドに活躍する動物写真家。その美しく想像力をかきたてる作品は世界的に高く評価されており、特に私たちにとって身近な存在であるねこの撮影は、40年以上ライフワークとして続けています。

青森県立郷土館では、平成27年度に「岩合光昭写真展『ねこ歩き』」が開催され、大変多くのお客さまで賑わいました。今年度開催の『ねこの京都』は、ねこを通して見た京都の春夏秋冬で構成された作品約180点に加え、本県などで撮影された「ふるさとのねこ」の追加撮影作品約10点を展示します。

また、7月13日（金）まで、当館のほか、県内の各プレイガイドで前売り券を販売しております。この前売り券、ねこの形をしていて大変かわいらしいデザインです。ぜひ、お買い求めください。

※コンビニエンスストアで前売り券を購入した場合、ねこの形のチケットではありません。

（TTHAグループ 櫻庭友輔）

ねこの京都

2018年7月14日(土)→8月26日(日)
9:00-18:00 (入館は17:30まで) ※金曜中休館

7月13日（金）まで
販売の前売り券



土曜セミナー (6月～3月実施分)



きよどっち

土曜セミナーとは？

当館職員や当館ゲストキュレーター(客員学芸員)が、郷土の歴史や文化、自然などについて楽しく、わかりやすくお話しする講座です。土曜日に開催し、どなたでも受講できます。お好みのテーマ、日程等に合わせて当館へお越しください。なお、当セミナーは「あおもり県民カレッジ」の単位取得講座(1回2単位)です。

《平成30年度土曜セミナー講座一覧》

回	期 日	分野	テーマ	講 師	
5	6 月	2日 自然	青森県の自然誌を作った人達①	山内 智	学芸
6		9日 歴史	津軽家の夫人たち	篠村 正雄	G
7		16日 歴史	蓑虫山人と広沢安任 ～新収蔵資料から～	太田原 慶子	学芸
8		23日 自然	光学現象を中心に自然現象を解説	成田 徹	G
9		30日 歴史	今、残しておきたい仕事、後世へ伝えたい職業	中園 裕	G
10	9 月	1日 考古	縄文のあやしい造形	岡本 洋	学芸
11		8日 自然	津軽地方供養塔の石材産地 ～おもに板碑を中心に～	川村 眞一	G
12		15日 考古	縄文時代の石の利用	杉野森 淳子	学芸
13		22日 民俗	化粧する地蔵サマ	小山 隆秀	学芸
14		29日 自然	特別講座 日本の隕石	国立科学博物館理工学研究部 理化学グループ長 米田 成一	特別
15	10 月	6日 自然	あおもり石ものがたり	島口 天	学芸
16		13日 美術	「生きること」と「ものをつくること」	岩井 康頼	G
17		20日 民俗	写真でみる県内の祭り	成田 敏	G
18		27日 総合	特別講座 あおもりの達人③「だし活あおもり！」	だしソムリエ 奥村 雅美	特別
19	11 月	3日 歴史	青森県の現代史を彩る花、そして魚、鳥、木	中園 裕	G
20		10日 民俗	冷たいおいしさを楽しむ ～氷の風俗～	増田 公寧	学芸
21		17日 歴史	青森県の交通史 一東北本線・「青弘鉄道」の建設一	佐藤 良宣	学芸
22		24日 考古	交流からみた岩木川上流域の先史文化	福田 友之	G
23	12 月	1日 考古	縄文の人々の生活	一町田 工	G
24		8日 歴史	歴史的サインと歴史のコトバ ～青森市街地歴史散歩～	工藤 大輔	G
25		15日 考古	西目屋縄文遺跡群の魅力	岡本 洋	学芸
26		22日 考古	祭祀用具の変遷からみる紀元前一千年紀の岩木川流域	根岸 洋	G
27	1 月	5日 考古	縄文人と動物	杉野森 淳子	学芸
28		12日 民俗	ケンカするネプタ	小山 隆秀	学芸
29		19日 自然	コケ植物の楽しみ	太田 正文	学芸
30		26日 自然	青森県の自然誌を作った人達②	山内 智	学芸
31	2 月	2日 歴史	青森県の百貨店	佐藤 良宣	学芸
32		9日 歴史	青森県の中世城館	工藤 清泰	G
33		16日 歴史	堤橋周辺の昔の街並	滝本 敦	学芸
34		23日 総合	故郷が歌われた市町村歌	川口 浩一	G
35	3 月	2日 民俗	性器と信仰	増田 公寧	学芸
36		9日 教育	教科書では学べない知っておきたいベーシック郷土史	福士 道太	学芸

※ G・・・当館ゲストキュレーター 特別・・・特別講師 学芸・・・当館学芸課職員
 ※ 1～4回(5月分)は既に実施済みです。 テーマは変更になる場合があります。

全講座共通

時 間:13:30～15:00 当日受付(事前申し込み無し) 会 場:当館小ホール 受講料:無料

